

風紋

vol.56 2018 / Winter

鳥取大学広報誌 FU-MON



特集

誌上オープンキャンパス

医学部保健学科へようこそ!

社会
貢献

がんの肝転移のメカニズムに迫り、
治療薬開発を目指す

話題の
研究

〈郊外〉を映画で考える

Student's
Voice

鳥大学生対談特別編『鳥取deアート』

学びを
支える

教育支援・国際交流推進機構
キャリアセンター

新任教員
紹介

大学院工学研究科

医学部保健学科へようこそ!

少子高齢化、高度な医学・医療が進む現代社会では、幅広い健康課題を支援できる看護師、最新の専門知識・技術に対応可能な臨床検査技師が求められる。そうした医療現場でリーダーとして活躍できる、高い臨床実践力を持つ人材を育成しているのが、鳥取大学医学部保健学科だ。普段はなかなか見ることのできないその学修を、オープンキャンパス気分でご紹介する。

教養あふれる医療人を育成する

鳥取大学医学部というと医学科や生命科学科が目されがちであるが、保健学科も毎年優秀な看護師、臨床検査技師等を数多く輩出しており、山陰エリアの医療・保健分野における中核的な教育・研究機関である。

保健学科は、看護師・保健師・助産師といった看護職を育成する「看護学専攻」と

「看護学専攻」の特徴

1年後期から実践がスタート!



1年生といえど学ぶのは一般教養だけではない。看護学専攻では「看護学原論」等、看護の基礎科目も学ぶ。「看護ってこんな感じかな」といったイメージがつかめる導入だ。後期になると、週2日スツケースを引張りながら米子キャンパスへ通う。医療系の演習室・実習室があるアレスコ棟(保健学科棟)で、看護の基礎的な実技が始まるからだ。毎週JRで米子へ向かい、指定宿に泊まるのは大変だが、ようやく始まる看護師らしい学びに学生たちは胸を躍らせる。

演習・実習では学生や教員が患者役を務めることが多いが、臨地実習に臨む前には市民ボランティア団体「模擬患者の会」の方々が患者役を演じてくれる。そこには本番と変わらぬ緊張感が漂い、看護を受けた感想や鋭い指摘をしていただくことで、学生らは次第に「看護師の顔」になっていくという。

「検査技術科学専攻」の特徴



検査技術科学専攻でも、1年次から医学や検査技術に関する知識を少しずつ学修する。教員が鳥取キャンパスを訪れて講義を行うのだ。「人体の構造と機能」「健

と、臨床検査技師等を育てる「検査技術科学専攻」の2つに分かれており、両専攻とも1年次は鳥取キャンパスで全学共通教育を学ぶ。豊かな知識と教養を兼ね備えた医療人・専門的職業人となるためには、基礎科目・教養科目を欠くことはできないからだ。また、地域・農学・工学部生らと交流することも彼らの人間力育成に大いに役立っている。こうして保健学科生のキャンパスライフが始まる。

康と生体情報「栄養と代謝」等の医療系科目に加え、生物・化学・物理の実験演習もある。「今さら何のために?」と考えがちだが、ここでやるのは受験のための理科ではない。検査技術の原理をよく理解する上で必要な知識として学ぶのだ。ゆえに「やらされる感」ではなく「今後に活かせる学び」と意識を変え、積極的に取り組んでほしいという。

2年次は検査技術の基礎を学びつつ、実習が3倍に増える。4年前期は病院での臨床実習がほとんどだ。附属病院だけでなく、3カ所の協力病院に出かけての実習も。いつもとは違う場所での実習は、学生の「本気」を誘発するはずだ。

実践力を養う演習・実習とは?

保健学科のカリキュラムは、1年次は専門の導入、2年次は専門の基盤科目と演習・実習、3・4年次は専門的な実習科目が中心となり、4年次には各々が選択した講座で課題研究に取り組むといった構成で進んでいく。中でも演習・実習は、人の命に関わる臨床の現場で活躍することを目指す学生にとって実践力を身に付ける大事な機会だ。

そこで次ページからは、米子キャンパスで行われている演習・実習の一部をご紹介します。在学生たちはどのように取り組んでいるのか、その様子をのぞいてみよう。

◎どんなことを学ぶの? 『各専攻の講座を紹介』

看護学専攻

基礎看護学講座

看護ケア方法と効果の検討、食事・排泄・運動といった日常生活援助技術、生命倫理・医療倫理、医療現場で役立つ英語教育等、患者の心情を考慮し、行為の意味を考えながら個性に応じた看護援助を行うための基本的知識、実践方法を学ぶ。

成人・老人看護学講座

生活習慣病、リハビリテーション、加齢に伴う疾患による生活自立度や認知力低下など、さまざまな健康課題を抱える成人・高齢者を対象に、セルフケア能力、生活の質の向上に向けて必要な看護ケアを実践するための知識・技術を身に付ける。

母性・小児家族看護学講座

母性家族看護学分野では、思春期の性教育、妊娠・出産時の母親と新生児のケア、更年期以降の保健など、女性の年代に応じた健康課題を、小児家族看護学分野では子どもの成長・発達と健康について学ぶ。助産師免許取得の助産コースも設置。

地域・精神看護学講座

地域看護学・在宅看護学・精神看護学の3分野があり、さまざまな健康レベルの人に対する健康増進、障がいからの回復を目指した看護実践の基本的理論と方法を習得。学内のみならず地域に出かけて講義・実習を行い、地域連携についても学ぶ。

検査技術科学専攻

病態検査学講座

病理学、細菌学、生理検査学、血液学、臨床化学など基礎的な知識を学び、血液等患者検体の検査、並びに心電図、脳波、呼吸機能、超音波等、生理検査の技術を身に付ける。病院での臨床検査、地域での医療活動といった実習も力を入れている。

生体制御学講座

人体の構造と機能、栄養と代謝、くすりと作用などをはじめ、分析検査学、医用工学、検査機器学等、臨床検査の基礎から先端領域まで幅広く学修。研究では、神経解剖・発生学、食品化学、アルツハイマー病の診断法・予防などに取り組んでいる。



演習

生活援助論演習Ⅰ

最初に学ぶ患者サポートの実践

前期は鳥取キャンパスでの座学が中心だった1年生が、初めて看護師らしい実技を行うのがこの演習だ。ナースウェアに袖を通すのは2回目という彼らが挑むのは、「安楽な体位の保持」という看護の基本となる技術。仰臥位・側臥位・半座位に分かれ、安楽な姿勢がとれるようにするにはどうしたらよいかを試していた。

まずは、後頭部や仙骨部などマットレスとの接地部位の圧力を測定。その数値が下がるように枕やクッションを対象者役の学生にあてがう。局所にかかる体圧を分散させる、本人が楽と感じるかどうかがポイントだ。学生らは、ああでもないこうでもないと思いながら安楽な姿勢を探っていく。

「私の担当する演習はこうしたアクティブラーニングのスタイルが多い」と奥田玲子講師。「教員が一方的に教えるのではなく、試行錯誤の中で主体的に考え、行動し、創造する力を身に付けてほしい」と願うからだ。

後半は、対象者の体を効率的な動作で移動する方法を学修。力学作用を応用し、重たい体をスッと動かすことができる、各ベッドで歓声が上がった。

演習 医療データ解析学

検査結果の分析に必要不可欠

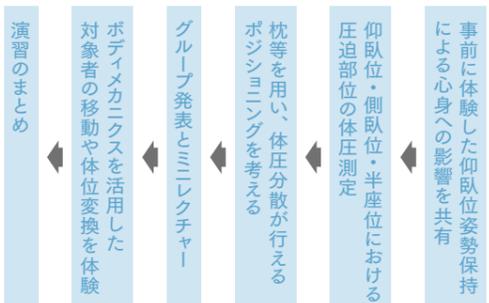
自分のノートパソコンに演習データを読み込み、学生たちがカタカタとキーボードを打つ。悩んで手が止まった学生には、担当教員である網崎孝志教授が寄り添い、丁寧に解説する。

「R」という統計解析ソフトを用いて行う3年次後期の必修科目。この日は初めての解析演習で、学生らはツベルクリン反応の発赤径測定値についてヒストグラム描画や「t検定」の検証を試した。

「データ解析の理論とスキルは大学生の基本的素養」と教授。臨床研究では誤用すると倫理的な問題に発展する場合も。正しく身に付けてほしいという。



◎演習の流れ



対象者のいる演習は初めてで、「看護師としての第一歩」を踏み出した気分です。ポデメカニクスでは、物理の知識を活用すればスムーズに患者さんの体位を変えられると知り、驚きました。

しらいし きよひこ
白石 清彦さん
保健学科看護学専攻1年



検査技術科学専攻

幅広い分野で活躍する臨床検査技師の育成

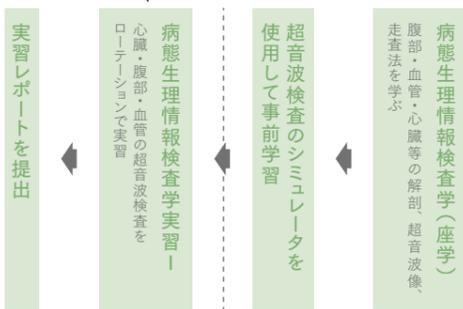


取材した実習

実習

病態生理情報検査学実習Ⅰ

◎病態生理情報検査学の流れ



座学では「ただ覚えるだけ」という感じだったけど、実習で臓器や血管の位置関係をより深く理解することができました。検査時に必要な患者さんへの声のかけ方も習得していきたいです。

わかまつ ひろみ
若松 宏海さん

保健学科検査技術科学専攻3年



看護学専攻

個性の尊厳に基づいた看護実践能力を育成

実習

成人看護学実習Ⅰ

目の前の患者さんが一番の先生

3年次後期から、いよいよ病院、施設地域での各論実習が始まる。3週間にわたる今回の実習は慢性疾患を持つ成人期にある患者さんを受け持たせていただく。主に、家庭生活・社会生活へ復帰する過程にある患者さんの看護を実践し、患者さんに価値ある変化をもたらす能力を身につけていく。

学生は、患者さんとの直接的な関わりを重ね、「その人らしさを支える看護とは何か？」を学んでいく。そのためには、実践場面を振り返り、リフレクティブな思考を身に付けることも大切だ。「患者さんが一番の先生。感謝の気持ちを忘れないように」と谷村千華准教授。学生はうまくいかないことに涙する日もあるが、この実習で彼らは大きく成長する。



痛みなく臓器を診られる超音波検査のコツを習得！



白衣をまとった学生たちがこれから行うのは、超音波（エコー）検査実習だ。超音波を利用して内臓を画面に映し出す画像検査で、この授業では腹部・心臓・血管について全員が検査を体験する。

同級生の体にゼリーを塗り、超音波診断装置のプロープ（探触子）を腹部に当てる。「少し冷たいですよ」という声かけも、実際の現場を想定した大事な練習だ。事前に学んだ解剖学を頭に思い浮かべながら目的の臓器にたどりつこうとプロープを動かし、目は画面をじっと見つめる。「プロープをしっかりと体に密着させ、時には肋骨を避けるように角度を変えてやらなくともうまく臓器を見ることはできない」と佐藤研吾講師。また、解剖学がきちんと理解できていないと、画面に映る2Dの臓器を頭の中で3D化して読みとることが難しいそうだ。

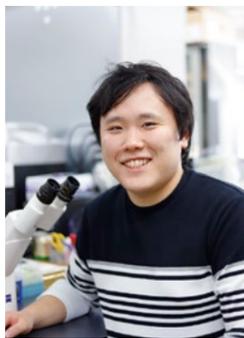
「先生はさっき、もっとグッと押さえてやっていたよ」、患者役の子がプロープを持つ同級生に感覚を伝える。臨床検査技師になる将来を思い描く彼らの真剣さが、ひしひしと伝わってきた。



社会貢献

神田 裕介 プロジェクト研究員
医学部生命科学科病態生化学分野

- 略歴**
- 2012年 鳥取大学医学部生命科学科卒業
 - 2014年 同大学院医学系研究科博士前期課程修了
 - 2015年 日本学術振興会特別研究員(DC2)
 - 2017年 同大学院医学系研究科博士後期課程修了 博士(生命科学)
 - 2017年 同大医学部 プロジェクト研究員
- 専門** がんの転移/炎症発がん
- 趣味** 水泳/ウォーキング/鍋料理/きのこ



がんの肝転移のメカニズムに迫り、治療薬開発を目指す

最新の統計では、日本人の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなるというデータが出ています。しかもその死因の約90%は「がんの転移」。医学部病態生化学分野・岡田太教授の研究グループでは、がん細胞の肝転移を決定するタンパク質の同定に成功しました。研究成果を受けて、肝転移の治療・予防薬の開発も進められています。

がんによる死亡率を減らしたい キーワードは「肝転移」

医学が進歩し、がんは早期発見・治療できれば完治が見込めるようになってきています。がん患者の5年生存率は年々伸びています。ところが、他臓器に転移を起こした場合の5年生存率は横ばい。そこで私は、「転移」の現象に焦点を当ててがん研究を行うことにしました。がんは、原発巣のすぐそばにあるリンパ節へ転移することが多いのですが、その次に多いのが肝臓への転移。全体の約60%

を占めています。肝臓に転移したがんは、さらに脳や肺へと二次的に転移する可能性も高いといわれていますので、ターゲットを「肝臓への転移」に絞りました。研究は「肝転移しやすいがん細胞」を作製することから始まりました。「肝転移しにくいがん細胞」と比較して、どういった遺伝子の発現ががんの肝転移に影響しているかを調べるためです。まず、「肝転移しにくいがん細胞」をマウスの脾臓に移植します。するとやがて、そのうちの一部分が肝転移を起こすので、転移した細胞を取り出してシャーレで培

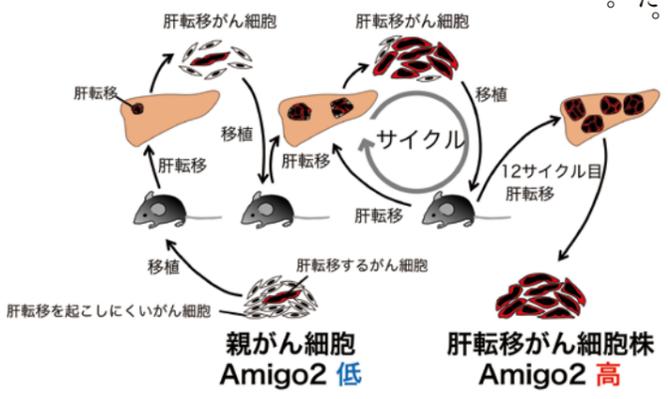


図1 肝臓へ転移するがん細胞の作製

養します。培養したがん細胞を、再び別のマウスの脾臓に移植、そしてまた肝転移を起こしたがん細胞を取り出します。これを12サイクル繰り返し、非常に高い確率で肝転移を起こす「肝転移がん細胞株(以下、LV12)」を作りだしました(図1)。

なぜ肝臓に転移するのか

「肝転移しにくいがん細胞」と「肝転移しやすいがん細胞」、両がん細胞株を比較する前に私は、がんがなぜ転移を起こすのか、そのメカニズムについても探ることにしました。実は親がん細胞(肝転移しにくいがん細胞)は、もともと肺に転移しやすいということが分かっていました。肺には転移するのですが、肝臓には転移しにくい細胞だったのです。一方、親がん細胞から作製したLV12は、肝臓に転移しやすい上、

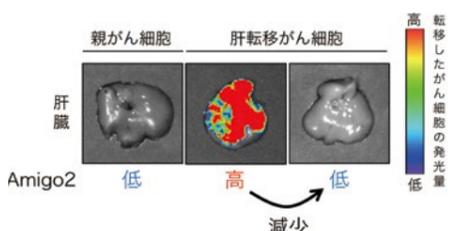


図2 Amigo2を減らすと肝転移が減る

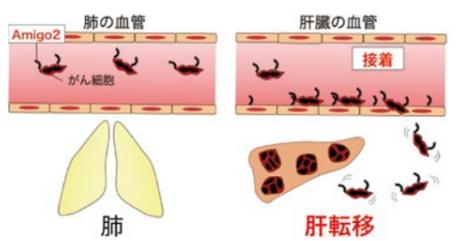


図3 肝転移を決定するAmigo2

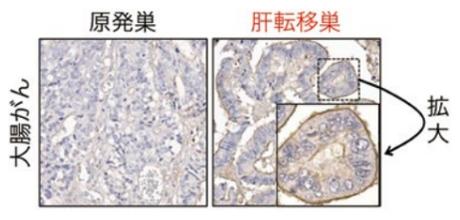


図4 ヒト肝転移組織においてもAmigo2が多い

親がん細胞と同様に肺にも転移しやすい細胞。つまり2つのがん細胞株は、肝転移に関してだけ違いがあるということです。

そこで、がん細胞を移植するルートを変えてみました。マウスの脾臓に移植すると血管を通じて直接肝臓に届くのですが、マウスの尾静脈に注射すると最初に到達する臓器は肺。ですから、親がん細胞を尾静脈から入れると100%肺に転移します。でも肝臓にはほとんど転移しません。では、LV12を尾静脈から入れるとどうなるでしょうか。当然肺転移するのですが、肺にたどり着きやすい移植ルートを通っても、それ以上に肝臓に転移したのです。これにより、LV12は肺ではなくて肝臓に転移しやすいことが明らかになりました。さらに、LV12は、肺ではなく肝臓の血管を構成している細胞「血管内皮細胞」に接着しやすいこと

を突き止め、これが肝臓に転移しやすい原因であることが分かりました。

肝転移を決定するのは「Amigo2」

さまざまな準備が整ったところで、両がん細胞株の中に含まれるありとあらゆる遺伝子の発現を網羅的に比較しました。発現が上がっている遺伝子は幾つかあったのですが、さらに「接着に関わるもの」というフィルターをかけて調べていくと、LV12のほうに「Amigo2 (Amphoterin-induced gene and open reading frame2)」という遺伝子の発現レベルが親がん細胞に比べて10倍ぐらい高かったのです。そこで、Amigo2が肝転移に関わるかを調べました。光のように遺伝子操作した親がん細胞をマウスの脾臓内に移植しても肝臓にはほとんど転移しませんが(図2左)、LV12では肝臓が強く光り、転移しています(図2中央)。このLV12のAmigo2を減らすと、肝臓での光が検出されず、転移が抑えられました(図2右)。つまりAmigo2こそが、がん細胞の肝転移を決定するタンパク質であるということが判明しました(図3)。加えて、そのメカニズムを解析した結果、Amigo2が「がん細胞の肝臓の血管内皮細胞への接着」を担うことを見つけた(図3)。

さて、得られた結果はマウスでの実験でしたので、これが人の肝転移にも当てはまるかどうか、臨床検体を用いて検証し

ました。Amigo2を褐色に染めてみると、原発巣の大腸がんにはほとんど見られないのに対し、肝臓に転移したがん細胞は表面が強く褐色に染まり、Amigo2が数多く発現していることが分かります(図4)。胃がんも肝臓に転移しやすい臓器なのですが、大腸がんと同じように、肝転移した細胞にはAmigo2発現が高いことも分かりました。

初の転移予防薬開発を目指して

現在、Amigo2を標的とした世界初の肝転移予防薬の開発を進めています。一つは、がんの表面にあるタンパク質や遺伝子を効率よく攻撃する抗体医薬を投与し、Amigo2が肝臓の血管内皮細胞に接着する機能をなくす方法。もう一つは低分子化合物を使って、同じく肝臓の血管内皮細胞に接着する機能をなくす方法。さらにもう一つは、そもそもAmigo2が発現しないようにする化合物を見つけ出すこと。化合物についてはこの研究室が主体となって研究に取り組んでおり、候補となる化合物をピックアップしているところです。

がんの研究は約200年前から始まっていますが、いまだすべてをコントロールできていません。転移を抑え、今まで人類が治せなかったがんの治療や予防に今後チャレンジしていきたいと思っています。



〈郊外〉を映画で考える

わたしたちの生きる場所としての〈郊外〉を、どのように見つけ、どのように記録することができるでしょうか。郊外論や風景論の研究と、映像作家としての作品制作の双方からこの問いに取り組み、「映画による場所論」と題したプロジェクトを続けています。



郊外の風景

白壁の美しい団地、緑豊かなニュータウン。何でも揃うショッピングモール。ファミレス、パチンコ屋、ガソリンスタンドが並ぶロードサイド……私たちはいま、こうした「郊外的」な風景を全国のどこにでも見ることが出来ます。

ある時期から〈郊外〉という言葉は、たんに地理的区分を示すだけではなく、人びとの「理想の住まい」に対する思いのイメージが投入される器としても用いられてきました。清潔で安全な住環境が保証され、幸福な家族生活を実現する場所として見出されたユートピアとしての

郊外。理想が現実となって多くの問題が顕在化し、清潔だけれど均質で、安全だけれど退屈な、人心を荒廃させるディスピアとしての郊外。若かった街も着実に年を重ね、歴史を刻んでいることもあって、近年は故郷や思い出の場所として郊外を語る者も出てきています。

映画という芸術は、郊外化による場所のありようの変化、とりわけ風景の変貌を批判的に見つめ続けてきました。例えば「略称・連続射殺魔」(昭和44年)では、連続ピストル射殺魔・永山則夫の犯行動機を日本の「均質化した風景」に見るという視点が示され、「青春の殺人者」(昭和51年)でも、悲劇的な殺人に至る青年の心象が、郊外化によって都市と農村が混在した風景に重ね合わせられています。

映画による場所論

しかし〈郊外〉は、ほんとうにそれらのフィルムに描かれるような、殺伐とした、陰惨な場所なのでしょうか。悲劇的な事件や犯罪ばかりではなく、喜びや楽しみも、あるいは喜怒哀楽に収まりきらないような感情を抱かせる日々の出来事がたくさんあって、そうしたディティールの積み重ねこそが〈郊外〉を生きることではないでしょうか。

私は一人の映像作家として、映画における〈郊外〉の表象が負の側面に偏りがちなのに疑問を抱き、同じ映画を活用することを通じて、そうした従来型の〈郊外〉像を覆せないだろうかと考えました。そして始めたのが、「映画による場所論」

ささき ゆうすけ
佐々木 友輔 講師
地域学部地域学科国際地域文化コース



略歴
2010年 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現領域修士
2013年 同大学大学院美術研究科博士課程修士(美術)
2013年 武蔵野美術大学美術館・図書館イメージライブラリー 嘱託職員
2016年 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 講師
専門 視覚メディア表現
趣味 茨城旅行

と題したプロジェクトです。

映画による場所論。これは、映画を研究対象として分析することでもなければ、場所論や郊外論の研究成果に基づいて脚本を書き、映画をつくることでもありません。簡潔に言うなら「映画で考える」。撮影をすることが場所と向き合うことであり、編集をすることが場所をより深く理解することであるような仕方作品制作をしようという試みです。

要するに「ドキュメンタリー」です。と言ってしまうのも良いのですが、この言葉からイメージされる枠組みに囚われず、劇映画や実験映画、映像人類学やメディアアートなど様々な分野の知見を活かして新たな映画のかたちを探りたいという思いから、映画による場所論という聞き

なれない言葉を用いることにしました。

土から土瀝青へ

映画による場所論の最初の実践となったのが、平成25年に制作した長編『土瀝青 asphalt』です。平成23年から25年にかけて、茨城県全域を電車や自転車で行きながら撮影した映像と、長塚節が茨城の貧農の暮らしを描いた長編小説『土』(明治43年)の朗読音声を重ね合わせて、私が記録した風景と長塚節が記述した風景とを同時に見る(聴く)ことができるようになりました。



佐々木友輔『土瀝青 asphalt』186分(平成25年)

長塚節が『土』を執筆してから、すでに百年以上の時が経っています。その間、首都圏である茨城にも例外なく郊外化の波は押し寄せたのですから、ふつうに考えれば、長塚の見た風景と現在の風景はまったく別物になってしまっているに違いありません。ですが不思議なことに、私が初めて『土』を読んだとき、「ああこれは自分の見ている風景だ」と感じる瞬間が幾度もあったのです。しかし、なぜそのように感じたのだろうか？ 郊外化を経ても変わら

ない茨城の風景とは、いったい何だろうか？ この問いに答えるために考案した方法こそが、『土瀝青 asphalt』における映像と音声の重ね合わせでした。

茨城から沖縄へ

その後、平成27年に『土瀝青 asphalt』を沖縄県立芸術大学で上映する機会があり、企画者の土屋誠一氏から「沖縄でも何か撮ってみないか」とご提案をいただいたのをきっかけに、沖縄での映画制作が始まります。

平成28年に制作した『TRAILer』では、第二次世界大戦時に米軍が沖縄本島に上陸した読谷村の渡具知ビーチから、日本軍の組織的抵抗が終了した摩文仁の丘までのルートをグーグルマップで検索し、二点を結ぶ撮影の旅に出かけました。道中には、観光広告でみたような風光明媚な風景もあれば、報道番組で見た米軍基地の風景もあり、あるいは茨城や鳥取とも見分けのつかない、まさに「郊外的」な風景もあります。そうした沖縄の多面的なありようを、映画として記録したいと考えたのです。

ただしタイトル(「trailer」=予告編)が示すように、私の沖縄での映画制作はまだ始まったばかり。いつか「本編」を完成させるべく、撮影を続けているところです。



佐々木友輔『TRAILer』50分(平成28年)

Student's Voice

鳥大学生対談特別編



おかもと まさふみ
岡本 正文さん
広島県安芸太田町出身
地域学部地域文化学科3年



風景画やイラストを描いています。主にアクリル、水彩や油彩も。鳥取は夕日がきれいなので、夕焼けに染まる湖山池の絵を描きました。



むらかみ だいき
村上 大樹さん
鳥取県倉吉市出身
地域学部地域文化学科3年



昨夏は気高町浜村温泉を拠点に活動する「ことり舎」の映画制作にスタッフとして参加。シナリオづくりに興味を抱き、目下勉強中!



たかはし れいな
高橋 礼奈さん
鳥取県鳥取市出身
地域学部地域文化学科3年



ゼミでコンテンポラリーを、ダンス部ではストリートをやっています。コンテは振付の意味が深く、重みが違うので踊るのが難しいです。



いざわ みさき
伊澤 美咲さん
鳥取県東伯郡湯梨浜町出身
地域学部地域文化学科3年



中1よりホルンを演奏。米子市の吹奏楽団に所属するほか、仲間と「ホルンアンサンブル」を結成、演奏会を開くなどしています。



まつもと りょう
松本 凌さん
大分県大分市出身
地域学部地域文化学科3年 **アートマネジメント**



地域の伝統芸能・祭りに興味を持っています。ゼミの研究テーマは鳥取の「麒麟獅子舞」。各地の保存会を巡って調査しています。



@地域学部附属芸術文化センターアートプラザ



▼**松本** 僕はみんなとは少し違って、柔らか体操がきっかけだ。

▼**高橋** 私のダンスとの出会いは、母に勧められて新体操の発表会を見に行ったこと。その後すぐに始めたんだけど、最初は体が硬くて、先生にギューッと押されながらやる柔軟体操がきっかけだ。

▼**伊澤** 私も部活でホルンと出会ったのがきっかけ。金管楽器の中で一番難しいといわれているんだけど、だからこそ吹けるようになるのがうれしいんです。和音がきれいなので、アンサンブルでうまくハモれたときも楽しい。

▼**岡本** 小学生の頃から図工好きだったんだけど、高校で美術部に入ったのが大きなきっかけかな。当時は絵の具の使い方が知らなかったけど、顧問の先生が丁寧に教えてくれて、思いどおりの色が作れるようになったらもっと楽しくなった。

▼**村上** もともと父が映画が大好きで、めちゃくちゃたくさん見ていたから、その影響で知らず知らずのうちに映画好きになった感じだね。今は視覚メディア表現・映画を専門とする佐々木友輔先生のゼミに所属して、シナリオづくりについて知識を蓄えているところ。

▼**松本** 僕たち5人はそれぞれ異なる芸術文化活動をやっているんだけど、みんな始めたきっかけは何?

積み重ねるほどに楽しさが増す
心が七色に輝く芸術との出会い



芸術大学ではないが、鳥大は意外にもアートに親しむ学生が多い。そこで今回は、学内外でアート活動にいそしむ5人の学生を招集。愉快的対談を4ページにわたる「特別編」でどうぞ!

鳥大で、地域で、 面白いアート活動 やっています！



音楽や美術をやっているわけではないけど、高校の先生に紹介されてこの芸術文化コースを受験しました。「いろんなことができる」と書いてあったし(笑)。ご縁をいただいて今ここにいます。

地域へ飛び出してアート活動 出会いに刺激を受けて成長する

- ▼松本 古い円筒形の病院を活用してアートプロジェクトを実施する「ホスピタイル・プロジェクト」って知ってる？僕はそのイベントに参加したり、運営をお手伝いをしたことがあるんだ。みんなはどんなことをしてる？
- ▼岡本 僕は一人で絵を描いていることが多いな。サークルには入ってないし。
- ▼高橋 描いた絵をインスタにアップしている、個展みたいになってるよね。

激的な授業だったよね。
▼伊澤 私は文章を読むのが得意じゃないから、最初は少し難しかった。ぱっと読んだだけでは全然分からなくて。でも、中島さんの解説で「なるほど」と理解できるようになりました。

皆で力を合わせたいミュージカル 苦労し充分、最高の思い出！

- ▼高橋 一番思い出に残っている授業といえば、2年後期にやったミュージカル。あれはしんどかった！
- ▼伊澤 私たち5人と、この授業を選じた留学生10人ぐらいで子ども向けミュージカルを一から創りあげていったんだよね。
- ▼岡本 「11ぴきのねこ」という絵本を基に、村上千がシナリオを書いて。
- ▼村上 そうだったね。でも、担当の先生から「留学生にこんな長セリフは無理だから削りなさい」と言われたんだよ。留学生に相談したら「できますー！」って言うし、板挟みになって……。結局、留学生のやる気を尊重して、削らずに頑張ってもらったことにしたんだよね。
- ▼高橋 確かに留学生たちは長いセリフと日本語の発音に苦労していたけど、メッ

Let's
Enjoy!!



- ▼松本 去年LINEスタンプも作ったじゃん。僕、持ってるよ。
- ▼岡本 ありがとう！野球のグローブをモチーフにしたキャラクター「なんでも拾うよグローブちゃん」スタンプ、今30人ぐらい買ってくれています。
- ▼村上 僕は、気高町で映画制作活動をしている「こころり舎」のことを授業で知って、制作スタッフとして映画撮影に参加しました。小道具を運んだりマイクを振ったりといった雑用がメインだったけど、すごく楽しかった。それが縁で僕が書いたシナリオで映画を撮ろうという話にもなってる。一応シナリオは作ったんだけど、タイミングが合わなくて見送ることになったけどね。
- ▼伊澤 もったいないね。どんなストーリーだったの？
- ▼村上 今年のテーマが「失恋」だったから、鳥大の中で起こる失恋物語を書いたんだ。でもそのときはシナリオの作り方をきちんと理解していなかったから、今思えば駄作だったな(笑)。
- ▼高橋 ダンス部は、地域のお祭りや幼稚園・保育園の夕涼み会、病院の夏祭りといった県内各地のイベントに出演させてもらっています。定期的に附属特別支援学校を訪れて、子どもたちにソーラン節を教えるりもしています。
- ▼伊澤 倉吉のショッピングセンターで毎年

小さなクリスマスコンサートが開かれるんだけど、トランペット・ホルン・ユーフォonium・パーカッションの人と組んで演奏、訪れる人にクリスマスソングを披露しています。

舞台演出家と名作戯曲を読む

- ▼高橋 今年の6月、ゼミの木野彩子先生が主催するダンスイベント「鳥取夏至祭2017」の運営をお手伝いをしました。著名なダンサーや音楽家、アーティスト約30人が鳥取に集い、まちなかで即興ダンスを踊ったりコラボレーションしたり。通りすがりの人も巻き込んでみたいな感じで、とっても面白かった！普段の授業でもアートに関わる機会があると思うんだけど、何か印象に残っているものはある？
- ▼伊澤 全学共通教育の教養科目の中にある「名作戯曲の創造的読解」という授業がすごく印象的でした。
- ▼松本 僕も取ったよ。講師は地元の劇団「鳥の劇場」を主宰する中島諒人さん。チエーホフの『かもめ』、三島由紀夫の『近代能楽集』という2つの戯曲を、登場人物になりきって音読するという内容だったよね。中島さんから「この場面はどういう感情で読んだの？」と突っ込まれたりして、結構面白かった。
- ▼岡本 セリふの一つ一つに意味がある、背景や登場人物の関係を理解してと、舞台演出家の立場から指導していただいた刺激がすごかった。

チャ頑張ったのが印象的だった。

- ▼松本 日本人の僕らでさえ苦労したからね。セリフだけじゃなく、歌にダンスもあつたから。「できねえよ」って何度も挫折しそうになった。
- ▼岡本 僕なんか、歌が下手なのにソロがあつて。何回も練習したのに、後で映像を見たら本番では1小節遅れて歌って、「あれ？」みたいなの……。
- ▼伊澤 (笑)。私は感情を込めてセリふを話すが一番大変だった。先生には「声が小さい！」ってしかられるし。
- ▼岡本 僕も先生方に注意された。「猫になりきれ！」って。
- ▼一同 (笑)
- ▼高橋 本番前の1、2週間は毎日のように練習したよね。でも、毎日全力投球するのは無理。モチベーションを保つのがすごく難しかったのを思い出します。一つの作品を創りあげるにはみんなで協力し合うことが大切なんだと、改めて実感した授業でした。

アートの心も生きる未来

- ▼村上 卒業制作として今考えているのは、必ず1つシナリオを書き上げること。スティーブン・キングが好きだから、人間ドラマのあるホラーにしたいんだよね。そしてそれを、映画制作の経験がある方に撮ってもらいたい。
- ▼岡本 いいね。僕は少し前に鳥取県出身

アートは
私たちの
生きる力！



のイラストレーター・毛利彰さんのことを調べただけで、単に絵を描くだけでなく、作品や作者について様々な視点から調べたり学んだりしながら自分の進みたい方向を模索しているところ。

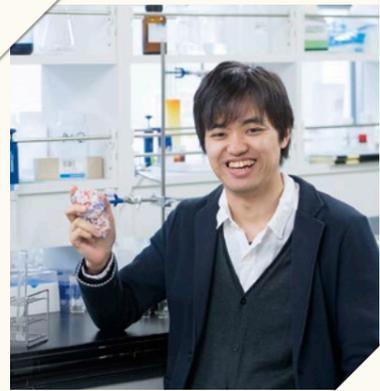
- ▼高橋 私は3月の卒業公演で、ストーリーダンスとコンテンポラリーダンスを踊るつもり。振付や人数・場面構成も全部自分で考えて、一から手がけていきたいと思っています。
- ▼伊澤 私も卒業研究発表で、地元の作曲家・山本喜三先生のリコーダー曲を編曲して、ホルン・フルート・打楽器の構成で演奏しようと思っています。合奏曲なんかも歌えたらいいな。
- ▼松本 みんなすごいね。僕は、今調査している麒麟獅子舞について卒業論文を書き、それをパネルにして展示発表する予定。鹿野町のまちづくりにも参加しているの、町と祭りや人と人の関係、地域活性化とのつながりといったことも論文にできたらと考えています。
- ▼高橋 卒業しても何かしらアートに関わっていきたいよね。ダンスが仕事にできなくても、働きながらどこかのダンス教室に通って、時には舞台上立つような、そういう生き方をしたいな。

写真右から：A中部地区高等学校音楽連盟合同演奏会・クリスマスコンサート [2016.12.25 in パーブルタウン(鳥取県倉吉市)] B鳥取大学地域学部附属芸術文化センター・わらべ館連携事業 アルテフェスタ2017 こどもミュージカル『11ぴきのねこ』[2017.2] Cことり舎 浜村温泉湯けむり映画塾(大阪芸術大学の撮影) [2017.9] D鳥取大学ダンス部自主公演 創作作品『いまここじぶん』[2017.8]



平成28年3月付で着任した稲葉と申します。鳥取は因幡国(いなばのくに)ということで、勝手に縁を感じています。ちなみに卯年生まれです。私の専門は生体関連化学で、ペプチドやタンパク質などを扱っています。これらは食品や化粧品として用いられていますが、ナノ(10億分の1)メートルレベルで見ると、球やチューブ、シートといった緻密な構造を形成しています。これら天然の設計図を手がかりに、化学的なアプローチによって新しいナノ構造体を作ることが目的としています。部品がものすごく小さく、かつ自分で好きなように設計できるプラモデルを作るようなものです。実際、タンパク質の模型を使ってどこがどう結合するか考えることもあります。これまでに、生きている細胞を刺す

化学の力を利用して行うナノレベルのものづくり



大学院工学研究科 化学・生物応用工学専攻

いなば ひろし

稲葉 央 助教

略歴

2014年 京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻博士後期課程単位取得退学(日本学術振興会特別研究員DC2) 博士(工学)(2015年)
2015年 伊リノイ大学アーバナ・ジャンペン校化学科 博士研究員
2016年 鳥取大学大学院工学研究科化学・生物応用工学専攻 助教

専門

生体関連化学/タンパク質化学/ペプチド化学

趣味

レコード鑑賞

タンパク質の「針」や、タンパク質が集積して形成する「チューブ」内部への分子導入などを報告しています。目に見えないサイズのを扱っているため、分子をどうやって組み合わせるか、ナノの世界でどんなことが起きているのか想像しながら試行錯誤する毎日であり、そこが面白い点でもあります。よく聞かれるのが、この研究が何の役に立つのか、という質問です。もちろんデバイス開発や薬物輸送など、様々な応用も考えられますが、むしろ純粋に科学的な面白さを重視し、新規構造体の構築や新しい現象の発見を目指しています。得られた知見が結果的に応用に繋がれば、これ以上のことはありません。学生さんと一緒に考えながら、ナノレベルのものづくりを楽しみたいと考えています。



大学院工学研究科 情報エレクトロニクス専攻

あかいわ かずあき

赤岩 和明 助教

略歴

2016年 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了 博士(工学)
2016年 鳥取大学大学院工学研究科情報エレクトロニクス専攻 助教

専門

半導体工学/結晶工学/電子デバイス工学

趣味

散歩

省エネルギー化に向けた次世代パワー半導体の開発

平成28年3月付で鳥取大学大学院工学研究科の助教に就任致しました赤岩和明です。私は半導体を専門にしており、主に省エネルギー化に向けた高効率パワー半導体の研究を行っております。パワー半導体は電力変換に用いられる半導体で、モータを効率よく回転させたり、太陽電池の発電を直流から交流に変換して送電網に送ったりと身の回りの様々な電気機器に効率よく電力を供給するデバイスとして活躍しています。より効率の高いパワー半導体を用いると電気機器の電力利用効率が高まるため、一説では日本国内の電気機器のパワー半導体を効率の高い次世代デバイスに変えることで原発数基分の省エネルギーが見込めるという試算もあります。

現在、私は酸化ガリウムという新しい材料をパワー半導体へ応用することを研究しています。この酸化ガリウムという材料は非常に高い電圧に耐え、また導電損失が少ないため、パワー半導体の大幅な小型・高効率・高出力化が可能となり、電気機器の更なる省エネ化や近年電動化の進む自動車や鉄道などのモータ駆動デバイスとしての応用も期待でき、現在精力的に研究が進められています。半導体は日進月歩で技術革新がなされる世界ですが、鳥取大学の学生さんと一緒にこの新しい材料の研究を続け、世界をリードできるような研究成果を出していくと共に、材料研究の楽しさや電子材料、電子工学の面白さを伝えていきたいと思っております。

教育支援・国際交流推進機構

キャリアセンター

社会人として自立できるように、実践的な支援メニューを取り揃えています



教育支援・国際交流推進機構 キャリアセンター長

さいもと ひろゆき

齋本 博之 教授

略歴

1983年 相模中央化学研究所 博士研究員
1986年 鳥取大学工学部 助教授
1992年 文部省在外研究員(スクリプス研究所、カリフォルニア)
2006年 鳥取大学工学部 教授
2013年 キャリアセンター センター長

専門

天然材料/天然由来分子の機能化デザイン

趣味

旅行/料理



卒業後に向けて
キャリア形成を支援

卒業後の就職に代表されるキャリア形成を支援する全学的拠点として、平成22年に設置されたのが「キャリアセンター」です。学生たちが社会人として自立できるよう、明確な目的意識を持って日々の学業に取り組む姿勢や、就職活動をスムーズに進めるための支援を行っています。センターでは、進路選択に必要な心構えなどを養う「キャリア教育」をはじめ、専門の相談員による就職相談や合同企

業説明会、インターンシップ、公務員講座などのさまざまな志望業界・職種に対応した支援体制を整えています。もちろん、これらのサポートは、鳥取・米子のどちらのキャンパスでも受けられます。就職支援といっても、学部3年生や院1年生から始めるわけではありません。将来のキャリア形成の基盤となるよう、学部や学科の専門教育科目と連携した多彩なキャリア教育科目を開講し、なかでも1年次に全員が受講する「キャリア入門」では、大学卒業後の進路選択(就職・進学)を視野に入れた充実した学生生活への動機づけを行います。

入学から卒業まで、
学生の強い味方

就活を始めるきっかけとなる「就職ガイダンス」では、自己分析の仕方から履歴書の書き方、就職したい地域別の就活の進め方、ビジネスマナーまで、幅広く受講できます。実際に就活が始まったら、センターに常駐する6人の相談員(うち、米子地区に1人)が個々の就活スケジュールに沿って、年間約4000件の就職相談を受け付けています。最初は自分のどんなところをアピールすれば良いのかなど

からなかった学生も、相談員と話す中で自分の輝く部分を見出し、胸を張って企業にPRしています。また、関西への高速バスの回数券の販売も好評で、これらの実践的なサポート体制の充実により、全学的就職希望者の就職率は99%を誇ります。

キャリアセンターは学生の強い味方です。学生たちには、将来、自分がどんな風になりたいのか、何がしたいのか、進む先をイメージしながら生活してもらいたいです。センターが入学から卒業までしっかりサポートするので、安心してキャンパスライフを満喫してほしいですね。

留学生を囲む集いを開催

2017.12.8



鳥取キャンパスにて学長主催「留学生を囲む集い」を開催しました。この会は留学生、教職員、留学生サポーターの日本人学生たちが、ともに楽しい時間を過ごすために毎年開催されています。今年には約150名が参加し、学生組織「G-Frenz(グローバルフレンズ)」によるパフォーマンスやクイズが行われました。中国人留学生が千昌夫の「北国の春」を日本語と中国語で熱唱し会場を魅了したり、韓国人留学生が韓国出身のアーティストグループ「BIGBANG」のダンスを踊ったりして会場を沸かせました。加えて、邦楽友の会による琴と三味線の演奏や、留学生らによるしゃんしゃん傘踊りも披露され、参加者らは楽しく交流を深め、集いは大盛り上がりとなりました。

NHK大学セミナー 「笑劇的国際コミュニケーション力」を開催

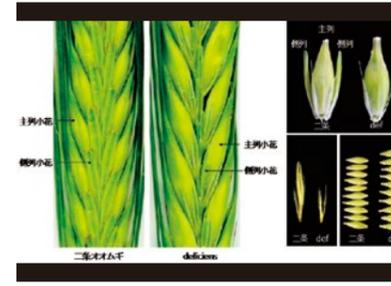
2017.11.21



講師にNHKの語学番組でおなじみのお笑いコンビ「バックンマックン」を迎えて、英語を身近に感じるコツや異文化交流の楽しさについて学ぶことを目的に開催されました。学生及び教職員約200名が受講し、まずは初対面の受講者同士、日本語で会話をしてみることから始まりました。続いて、英語でのコミュニケーション力を上げるコツや、国ごとの価値観の違いなど受講者を巻き込んで軽快なトークで説明し、会場を沸かせました。「完璧主義にならず自信をもって話すことが大事」と呼びかけ、最後にはバックンの「Can you speak English?」の問いかけに、参加者らが「Yes!」と大声で答えるなど、英語に親しみを感じ、国際コミュニケーションに対する意識が変わるセミナーとなりました。

オオムギの穂の形を制御する 仕組みを発見しました

2017.11.3



農学部の佐久間俊助教、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構次世代作物開発研究センターの小松田隆夫主席研究員らの国際共同研究グループは、オオムギの穂の形を制御する仕組みを明らかにし、2017年11月3日に「Plant Physiology」電子版に公開されました。本研究によってオオムギの穂の形を変えることで穀粒サイズを改良できることが分かりました。特定した遺伝変異はDNAマーカーとして育種利用することが可能です。しかしながら、オオムギ、コムギなどの麦類において穂の発達を制御する仕組みについての理解はまだ深まっていないのが現状です。今後は麦類の収量アップにつながる遺伝子の単離、機能解明に関する研究の進展が必要とされます。



WHAT'S NEW?



大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、
鳥取大学の最新情報をご紹介します。

平成29年度 鳥取大学みらい基金事業伝達式を実施

2018.1.17



鳥取大学みらい基金は、本学の教育研究、学生支援、国際交流、地域貢献などの各種事業を支援する目的で設立され、学内外の方々からのご寄附により運営しています。今年度は、学生支援としてサークル強化事業を選定し、体育会漕艇部に対してシングルスカルなどの整備を支援しました。

式には漕艇部関係者をはじめ約30名が出席し、豊島学長から漕艇部主将の川端敏享さん(工学部電気情報系学科2年)に目録が贈呈されました。漕艇部を代表して川端さんが「この度はシングルスカル2艇を購入していただき、ありがとうございました。これからも日々の練習を常に強化し、大会で入賞やメダルを取れるように一生懸命頑張ります」と、謝辞と今後の活動に向けての抱負を力強く述べました。

ビブリオバトル全国大会に 農学部学生が出場

2017.12.17



農学部共同獣医学科3年小倉裕平さんが、鳥取地区代表として、東京で開催された全国大会・全国大学ビブリオバトル2017首都決戦に出場しました。全国各地で開催された計207回の予選会・地区決戦には、127大学から延べ1160名が参加し、各予選会を勝ち抜いた36名が、本戦に出場。本学の学生がビブリオバトルの全国大会に進出するのは、今回が初めてです。小倉さんは鳥取地区決戦に引き続き『読んでいない本について堂々と語る本』で参加。惜しくもファイナリストとはなりませんでしたが、「ビブリオバトルは、本の決め方・発表方法の組み合わせは無数のやり方があり、その多彩さには驚きます。出場の機会があれば、じっくりその方法を考えてリベンジしたい」と話していました。

たのしいすぎ会が 学生ボランティア賞を受賞

2017.11.17



パシフィコ横浜(横浜市)で行われた「ソロプチミスト日本財団 平成29年 年次贈呈式」において、本学の学生が作るグループ「たのしいすぎ会」が「学生ボランティア賞」を受賞しました。たのしいすぎ会は、医学部保健学科看護学専攻の学生を中心とした約60人からなる学生グループで、平成25年度に結成されて以降、琴浦町の住民を対象に、健康維持や生活の安全を守る取り組みを行っています。昨年度は、従来の活動に加え、鳥取県中部地震で被災した地域の高齢者世帯を中心に訪問し、住民の健康維持、不安軽減などに努めたことが高く評価され、この度の受賞に至りました。授賞式では、2千人を超える参加者の中、会代表の保健学科4年大場明奈さんが賞状を受け取りました。

鳥取県中部地震の復旧活動に対する 感謝状を授与されました

2017.11.6・9



本学が鳥取県中部地震に際し、被災者の衛生上、安全上の確保や健康の保持増進に貢献したことが認められ、県から感謝状が授与されました。11月6日に大学で行われた贈呈式には学長のほか、活動を行った学生や引率教員等が出席し、鳥取県地域振興部長の高橋紀子氏から感謝状が手渡され、当時に行った活動などを振り返りました。また、11月9日に開催された第58回倉吉市社会福祉大会では、本学が倉吉市ボランティアセンターの運営に貢献したことに対して社会福祉法人倉吉市福祉協議会から感謝状が授与され、表彰式には活動を行った学生をはじめ、引率教員が出席しました。

なお、被災地の復興のために、引き続き支援を続けて参ります。

大学からのお知らせ

INFORMATION

【平成29年度鳥取大学長表彰】



本学における教育、研究、医療、事務の改善等において、また社会への寄与に関して、特に顕著な業績を挙げたと認められる職員に対し、その業績を称えることを目的として実施するものです。

地域学部 インターローカル編集委員会 (代表: 中 朋美 准教授)
『インターローカル: つながる地域と海外』出版が海外実践教育に貢献

医学部附属病院 シミュレーションセンター (代表: 中村 廣繁 センター長)
最先端のシミュレーターを用いた医学教育への貢献

猪迫 耕二 教授 (農学部生命環境農学科) (生命環境農学科長)
生命環境農学科の設置、運営における貢献

宮崎 知子 主任司書 / 山田 裕果 司書 (学術情報部図書館情報課 学術情報担当)
「レポートの書き方講習会」の拡大における学生のライティングスキル向上支援

附属特別支援学校 (代表: 三木 裕和 校長)
知的障害特別支援学校における学校図書館運営及び学校図書館を活用した教育実践に係る継続的な取り組みが県内外で高い評価を獲得

岡田 太 教授 (医学部生命科学科)
がんの転移機構の解明に関する研究功績

医学部附属病院 感染対策チーム (代表: 千酌 浩樹 感染制御部長)
先進的取り組みにより医学部附属病院内感染対策の充実に貢献

大島 麻美 助教 (医学部保健学科)
鳥取県内で思春期ピアカウンセラー・エデュケーション活動を支援、実践し県内の思春期保健の向上に寄与

野波 和好 准教授 (農学部附属フィールドサイエンスセンター)
(地域価値創造研究教育機構兼務教員)
結束作業等効率化のための芝収穫機の研究・開発

北村 章 教授 (工学研究科情報エレクトロニクス専攻)
IoTビッグデータサイエンスによる製造リアルタイムリスクアセスメントシステム、我が国の自主保安力向上に大きく貢献

【学生の活躍】



鳥取大学体育会サッカー部
11月18日・19日に広島大学西条総合運動場で開催された第68回中国五大学学生競技大会で優勝し、前年の初優勝に続いて2連覇の快挙となりました。



ラグビー部

鳥取・米子地区合同チームが11月18日・19日に鳥根県立浜山公園球場で開催された第68回中国五大学学生競技大会で優勝しました。第52回大会以来16年ぶりの優勝です。

【叙勲受章】

平成29年秋の叙勲において、本学関係の受章者は、以下の方です。このたびの受章、誠にめでとうございます。

瑞宝中級章

猪川 嗣朗
名誉教授 (教育研究功労)

本号の特集は、「医学部保健学科へようこそ」。医学部保健学科では、医療現場でリーダーとして活躍できる、高い臨床実践力を持つ人材育成に取り組んでいます。看護師・保健師・助産師といった看護職を育成する「看護学専攻」と医療検査技師等を育成する「医療技術学専攻」の二つに分かれています。1年次は鳥取キャンパスで基礎・教養科目を中心に、また2年次以降は米子キャンパスで専門教科、演習・実習と実践力を身につけるカリキュラムを中心に取り組んでおり、普段はなかなか見ることが出来ない演習・実習の一部をオープンキャンパス風にご紹介させていただきます。

社会貢献では、がんの「肝転移」メカニズムから、がん治療や予防を目指す研究、話題の研究では生きる場所としての「郊外」を映画で考えるという研究の紹介をさせていただきます。

「風紋」をお読みくださりありがとうございました。お寄せいただいた「ご意見・ご要望」を紙面に反映させるべく、参考にさせていただきます。今後とも風紋が皆様と鳥取大学の架け橋となることを祈念しております。

編集後記
EDITOR'S NOTE

Circle Activities

普段の練習は、休日を含めた週3日各3時間程、男子ソフトテニス部と合同で行っていて、大会前には女子のみで試合を重ねています。みんな向上心が強く、活動がない日でも、部員同士で頻りに誘い合って積極的に自主練習をしています。練習は、前衛・後衛それぞれに対応する内容や、全体でのサーブ・レシーブなどを中心に、上級者・初心者問わず技術面の充実を図ったものとなっています。また、部員の半分以上が大学から競技を始めているので、互いに気付いたことは意見交換し合うなど、技術面での難しいところや上達する術を部全体で把握・共有しやすいのが強みです。部員同士の実力のバランスを重視した初心者教



部長
ふるさわ ほしこ
古澤 星子さん
医学部医学科6年

おぐら ゆうか
小倉 優花さん
医学部医学科3年

サークル紹介 医学部 女子ソフトテニス部



育にも特に気を付けています。更に、練習の成果を発揮できる、大会や行事が年間を通して数多くあります。その中でも最大の大会である全医体(全国医学科生総合体育大会)で、今年度の団体戦優勝を果たすことができました。活動内外問わず、学年の垣根を越えたアットホームな雰囲気で行われているが、尚且つ自主性を忘れず上達することに積極的な姿勢が、今回の結果に繋げることができたのだと思います。

10月に新体制に移行し、部のカラーも新しいものとなっています。全医体の優勝という結果を糧にしながらも現状に甘んじることなく、部員一同頑張っていくのでこれからも応援よろしくお願ひします。



※サークル紹介記事は学生広報スタッフが担当しました。

3月に学内合同企業説明会を開催します

鳥取大学では毎年、就職活動の開始(企業の採用広報解禁)時期に合わせて、学内合同企業説明会を開催し、全国から多くの企業に参加いただいています。今年度は3月1日～2日の2日間、出展企業300社(各日75社、午前と午後で入れ替え)で開催します。



昨年度の説明会の様子

就職情報

JOB HUNTING INFORMATION





読者アンケートにご協力いただいた方へ
プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で3名様にプレゼントを進呈いたします。

とりりんぬいぐるみ



合計
3名様

アンケートのご回答はこちら

プレゼント応募締切 **3/30(金)**

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



大学からのお知らせ

INFORMATION

サイエンス・アカデミーのご案内

申込不要
受講料無料

日時 毎月第2・第4土曜日 10:30~12:00
会場 鳥取県立図書館 2階 大研修室(鳥取市尚徳町101)
お問い合わせ 鳥取大学地域価値創造研究教育機構企画管理室

TEL **0857-31-6777**

テーマ より地域に根ざし、貢献する大学へ

テーマ	講師
3/10 ± ピンピンコロリのサイエンス ～骨と関節を元気にする話～	医学部 教授 萩野 浩
3/24 ± 鳥取県中部地震による 石造文化財の被災状況調査	地域学部 准教授 高田 健一

行事のお知らせ

3/2 ㊦ 鳥取大学卒業式・学位記授与式 (医学部・医学系研究科) 【時間】医学部 10:30 医学系研究科 9:00 【場所】医学部記念講堂(米子キャンパス)	3/18 ㊦ 鳥取大学卒業式・学位記授与式 【時間】11:00 【場所】とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町)
3/9 ㊦ 連合農学研究科学位記授与式 【時間】14:30 【場所】農学部会議室(鳥取キャンパス)	4/6 ㊦ 鳥取大学入学式 【時間】11:00(プレイベント 10:30) 【場所】とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町)
	4/13 ㊦ 連合農学研究科入学式 【時間】14:30 【場所】農学部会議室(鳥取キャンパス)

※式典会場へのご来場は公共交通機関をご利用ください。

信頼と笑顔

地域に感謝

move your heart

鳥取銀行は、お客さまの明るい未来と活力あふれる地域を創造する銀行を目指します。

共生の里づくり支援事業



鳥取砂丘の清掃活動



鳥取大学「鳥取銀行講座」



ネーミングライツによる地域支援



とりぎんバードスタジアム



とりぎん文化会館

TOTTORI BANK



青い鳥の銀行です。

鳥取銀行

風紋のバックナンバーは、こちらから

www.tottori-u.ac.jp/fumon

鳥取大学広報誌

検索

鳥取大学に関するお問い合わせ

■入学試験	0857-31-5061	■研究・産官学連携	0857-31-5608
■公開講座・社会貢献	0857-31-6777	■学生・学生生活	0857-31-5053
■授業料納入	0857-31-5029	■学生就職支援	0857-31-5456

その他はホームページ www.tottori-u.ac.jp/ask をご覧ください



鳥取大学
Tottori University

編集発行 / 広報委員会 広報誌編集専門委員会

2018年2月発行

山下博樹(委員長・地域学部) 筒井宏樹(地域学部) 西村正広(医学部) 塩崎一郎(工学研究科)
遠藤常嘉(農学部) 滝波稚子(教育支援・国際交流推進機構) 山岸大輔(産学連携推進機構) 西尾瀧雄(総務課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
[E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp>

*本誌掲載の写真、図版、記事などの無断複写・転載を禁じます。

表紙題字: 住川英明(地域学部)